2026年11月6日

各　位

会社名　京　成　電　鉄　株　式　会　社
代表者名　代表取締役社長　天野　貴夫
（コード番号　9009　東証プライム市場）
問合せ先
計画管理部計画管理担当課長　足原　潤一
（TEL. 047-712-7841）

鉄道旅客運賃改定申請に関するお知らせ

当社は、2026年11月6日開催の取締役会において、鉄道旅客運賃の変更認可申請を行うことを決議し、本日付で国土交通大臣宛に申請を行いましたので、下記の通りお知らせいたします。

本申請は、近年の物価上昇等に伴う各費用の増加、安全・安心な輸送サービスを提供し続けるために発生する多額の設備投資等により、今後も厳しい経営環境が想定される中、安定的に鉄道事業を運営し、お客様に喜ばれる良質な商品・サービスを安全・快適に提供し続けるため、1995年以来32年ぶり（消費税率変更によるものを除く）となる鉄道旅客運賃の改定に向けて行うものです。

記

１．実施予定時期
2028年３月

２．改定率・増収率　（単位：%）

		上限運賃	
		改定率	増収率
定　期　外		14.3	12.6
定　期	通　勤	16.9	13.5
	通　学	△11.5	△7.2
	計	13.7	11.2
合　計		14.1	12.2

※ 現行運賃に鉄道駅バリアフリー料金を含めた場合の改定率・増収率です。
含めない場合の改定率は「定期外17.3%」「定期(通勤)15.3%」です。

３．鉄道収支実績及び推定　（単位：百万円）

項目	2025年度	2028～2030年度（３カ年平均）	
	実績	現行	申請
収入	93,340	101,891	112,146
原価	86,996	120,327	120,327
差引損益	6,343	▲18,436	▲8,181
収支率	107.3%	84.7%	93.2%

※申請上の計算方式によるものであり、実際の収支とは異なります。
※端数処理のため、収入・支出の差分と差引が一致しない場合があります。

以　上

申請理由

■当社はこれまで、「安全・安心」を第一に、東京都東部・千葉県で沿線の皆様の暮らしを支えると共に、成田空港輸送を担い、国民生活と社会経済活動に欠かせない公共交通機関として事業を運営してきた。1998年には千葉急行電鉄（現在の千原線）から鉄道事業を譲り受け、2010年には空港アクセス新線として成田空港線を開業させたほか、2025年には新京成電鉄（現在の松戸線）と合併するなど、地域輸送の維持、成田空港輸送の強化に努めてきた。

■引き続き、安全・安心なサービスをお客様にご提供するため、駅・線路などの鉄道諸施設や車両の維持管理や安全性向上を計画的に実施するとともに、エレベーター・エスカレーター設置やホームドア整備の加速など、バリアフリー化を含めた利用者サービスの向上にも積極的に取り組む。さらに、各行政機関と連携して、京成本線荒川橋梁及び綾瀬川橋梁架替、葛飾区内の連続立体化といった災害対策や交通渋滞対策等の社会的ニーズに対応した大規模工事への対応も行う。加えて、新京成電鉄との合併に伴い、京成津田沼駅6番線ホームを千葉線と接続する工事を実施し、松戸線と千葉線の直通時間帯を拡大するほか、松戸線～千原線の直通運転を実施して利便性の向上を図る。

■一方で、テレワークなどの新たな生活様式の定着による社会構造の変化での利用者減少に加え、近年の物価上昇に伴い人件費・電力料・経費など各費用が増加、直近では中東紛争による費用の更なる増加等、今後も厳しい経営環境が想定される。

■このような状況の中、安全・安心な輸送サービスをお客様に提供するための諸施策を計画的に実施するためには、多額の設備投資が必要となることに加えて、現在計画されている成田空港の機能強化に伴う空港利用者の増加に対応するためには、新型有料特急の導入や車両基地の拡充、さらには成田湯川駅～成田空港駅間の単線区間の複線化、新鎌ヶ谷～印旛日本医大間のスカイライナー及び新型有料特急専用の新線整備（複々線化）、空港駅の折り返し機能の改善等の国や空港会社の取組に対応した中長期的な大規模投資を行う必要がある。

■併せて、新京成電鉄との合併を踏まえて、現行運賃制度の異なる京成本線等と千原線、松戸線の運賃制度の統合を実施し、千原線及び松戸線と京成本線等を乗り継ぐ場合の併算を廃止する等、お客様にわかりやすい運賃制度に改め、お客様の利便性向上を図っていく。

Copyright © Keisei Electric Railway Co.,Ltd.

申請概要

■改定予定時期　2028年3月

■改定率等　　改定率：14.1%　増収率：12.2%
※現行運賃に鉄道駅バリアフリー料金を含めた場合の改定率・増収率

■初乗り運賃　　京成本線等170円（現行150円）
※現行運賃に鉄道駅バリアフリー料金を含めた場合の運賃
成田空港線230円（現行210円）

■改定率および定期割引率

改定率				
普通運賃	通勤定期	通学定期	定期計	合計
14.3%	16.9%	△11.5%	13.7%	14.1%

※現行運賃に鉄道駅バリアフリー料金を含めた場合の改定率

定期割引率							
京成本線等				成田空港線			
通勤定期		通学定期		通勤定期		通学定期	
現行	申請	現行	申請	現行	申請	現行	申請
34.5%	36.3%	80.0%	83.1%	30.2%	30.8%	56.1%	61.4%

※現行運賃に鉄道駅バリアフリー料金を含めた場合の定期割引率

Copyright © Keisei Electric Railway Co.,Ltd.

運賃改定の概要①

■普通運賃
鉄道駅バリアフリー料金を含めた現行運賃と改定後運賃の改定率が20%以内になる改定とする。

■通勤定期
概ね対キロ区間ごとの普通運賃の値上げ幅に合わせた改定とする。

■通学定期
家計負担に配慮し、据え置きとする。

■鉄道駅バリアフリー料金
京成本線等・千原線で収受している鉄道駅バリアフリー料金（普通旅客運賃・通勤定期旅客運賃のみ）は、今回の運賃改定にあわせ廃止とする。なお、現在整備計画にある施設整備を継続して実施するとともに、これまで以上に施設整備を推進していく。

■運賃制度の統合
普通旅客運賃・定期旅客運賃ともに、千原線・松戸線の運賃を京成本線等と同額とする。併せて、京成本線等と千原線、松戸線を跨がる場合の運賃の併算（跨って利用する路線それぞれでの運賃収受）を廃止する。ただし、松戸線内の利用は京成本線と運賃を同額とすることで、運賃額が高くなることから、認可を受ける運賃とは別に、松戸線内利用の運賃を届出により設定する予定（これにより、６ｋｍを超える利用は京成本線等の運賃額より低い運賃額となる）。

	初乗り運賃　※（）はICカード運賃			
	京成本線等	千原線	松戸線	成田空港線
現行	１５０円（１４６円）	２００円（１９９円）	１７０円（１６７円）	２１０円（２１０円）
申請	１７０円（１６７円）			２３０円（２２９円）

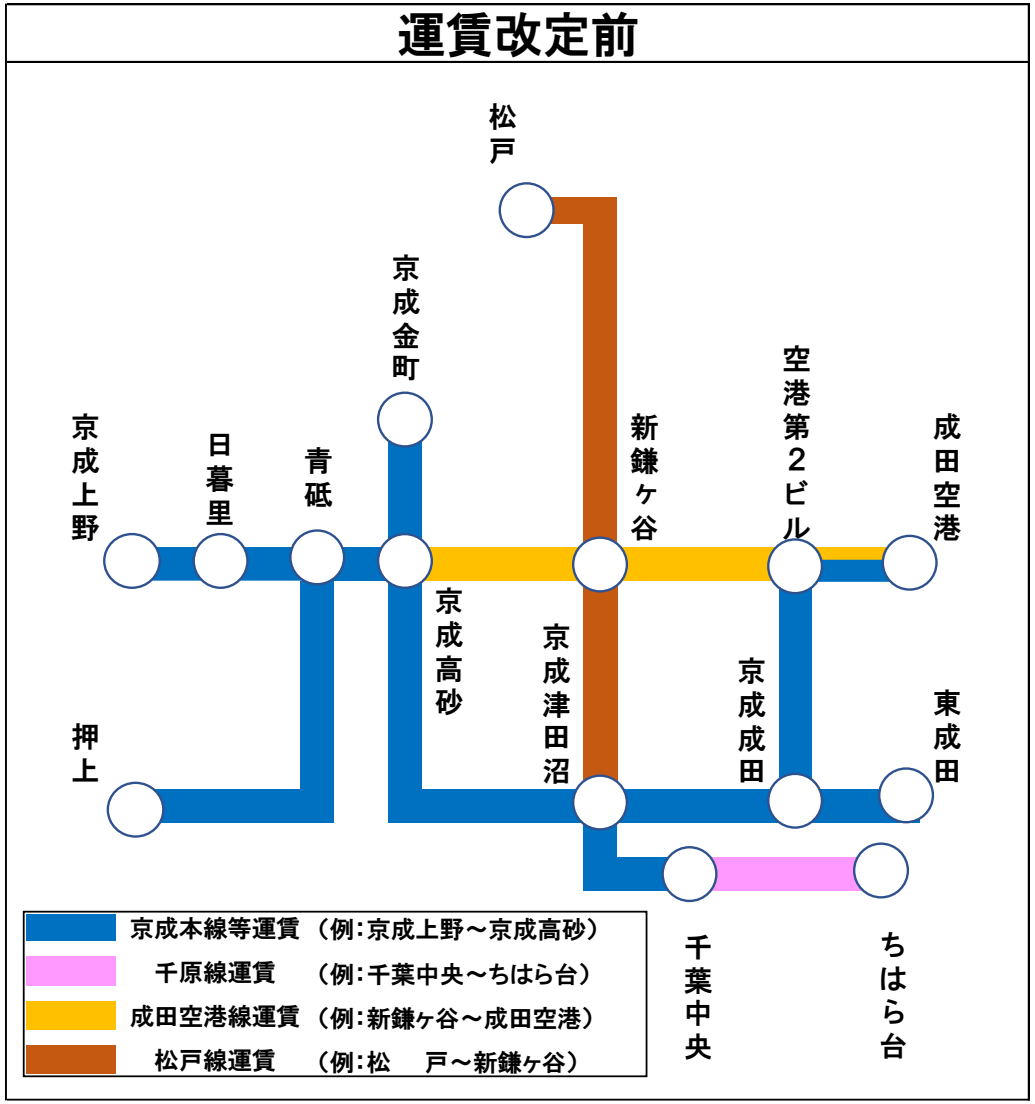
※京成本線等・千原線も現行運賃は鉄道駅バリアフリー料金を含めた場合です

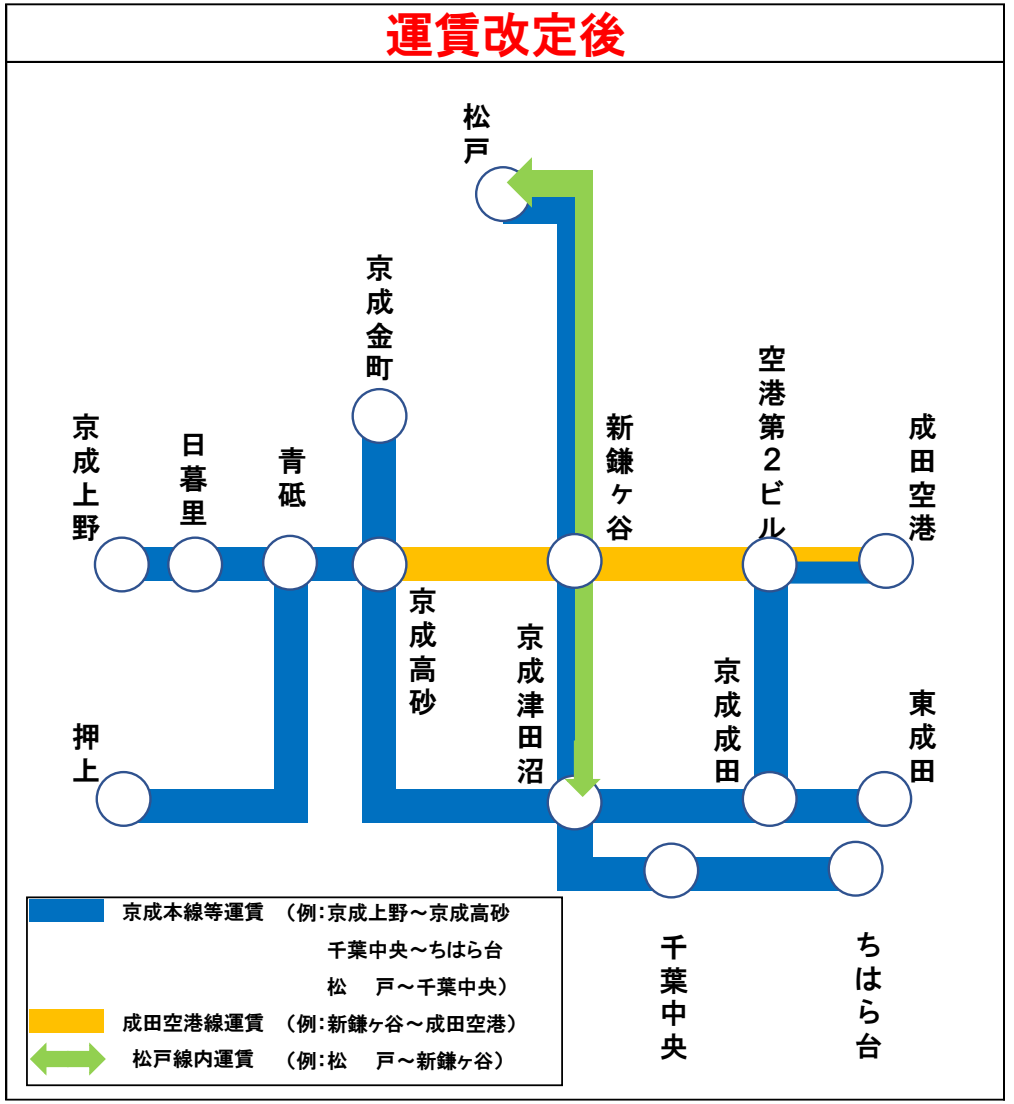
Copyright © Keisei Electric Railway Co.,Ltd.

運賃改定の概要②

いろんな笑顔を結びたい
京成電鉄

■運賃制度の統合





Copyright © Keisei Electric Railway Co.,Ltd.

運賃改定の概要③

■運賃制度の統合

	運賃改定前		運賃改定後	
船橋競馬場 ～ 京成津田沼 （2.5km）	大人運賃：150円（きっぷ）			
	140円	鉄道駅 ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ 料金 10円		
千葉中央 ～ 千葉寺 （2.5km）	大人運賃：200円（きっぷ）		大人運賃：170円（きっぷ）	
	190円	鉄道駅 ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ 料金 10円	170円	なし
北習志野 ～ 滝不動 （2.5km）	大人運賃：170円（きっぷ）			
	170円	なし		

Copyright © Keisei Electric Railway Co.,Ltd.

運賃改定の概要④

■運賃制度の統合による併算廃止

みどり台～千葉寺
（京成千葉線・千原線）
（千葉中央連絡）
（5.5km）

新津田沼～実籾
（松戸線・京成本線）
（京成津田沼連絡）
（5.5km）

運賃改定前

大人運賃：300円（きっぷ）

みどり台～千葉中央	140円	鉄道駅バリアフリー料金 10円	乗継割引 △40円
千葉中央～千葉寺	190円		
新津田沼～京成津田沼	170円	鉄道駅バリアフリー料金 10円	乗継割引 △20円
京成津田沼～実籾	160円		

大人運賃：320円（きっぷ）

運賃改定後

みどり台～千葉寺	230円
新津田沼～実籾	230円

大人運賃：230円（きっぷ）

Copyright © Keisei Electric Railway Co.,Ltd.

今後予定している設備投資の内容①

- これまで安全・安定輸送の確保を中心に設備投資を実施してきたが、今後は安全・安定輸送の確保に加え、ホームドア等のバリアフリー整備や新型有料特急導入等、お客様サービスの向上、輸送力増強のための設備投資を実施していく。
- 2028年度～2030年度の3カ年において、当社史上最大規模となる1,670億円の設備投資を実施。
- 1998年度～1999年度の千原線営業開始、2009年度～2010年度の成田空港線開業を除くと、2010年代半ばまでは概ね100億円/年程度、それ以降は徐々に増加し、コロナ禍前は200億円/年程度で推移。

■今後の設備投資計画の視点
①**安全・安定輸送の確保**のための設備投資を最優先に実施するとともに、②**お客様サービスの向上**のための設備投資、
③**輸送力増強**のための設備投資、の3つの視点で積極的に設備投資を実施していく。

①	安全・安定輸送の確保	➢ 車両代替、施設・設備の更新、施設の耐震補強、職場環境改善 など	2028年度～2030年度計 718億円(239億円/年)
②	お客様サービスの向上	➢ バリアフリー整備の推進、駅舎のリニューアル など	2028年度～2030年度計 251億円(84億円/年)
③	輸送力増強	➢ 宗吾車両基地の拡充、新型有料特急の導入 など	2028年度～2030年度計 701億円(234億円/年)

Copyright © Keisei Electric Railway Co.,Ltd.

今後予定している設備投資の内容②

いろんな笑顔を結びたい
京成電鉄

■今後予定している設備投資の規模および主な内容

（億円）

プロジェクト分類	2021	2022	2023	2024	2025	2026（計画）	2027（計画）	2028（計画）	2029（計画）	2030（計画）
安全・安定輸送の確保	118	108	124	132	177	335	258	275	215	228
お客様サービスの向上	8	20	21	23	50	125	86	70	101	80
輸送力増強	11	7	14	77	123	106	253	561	77	63
合 計	**136**	**135**	**160**	**232**	**350**	**566**	**597**	**906**	**393**	**371**

2028年度～2030年度計　1,670億円(557億円/年)

※数値はプロジェクト単位で億円単位を四捨五入

(2028年度～2030年度 設備投資の主な内容)

プロジェクト	投資額/年	主な内容
安全・安定輸送の確保	239億円	**車両代替、施設・設備の更新、施設の耐震補強、職場環境改善　など**
お客様サービスの向上	84億円	**バリアフリー整備の推進、駅舎のリニューアル　など**
輸送力増強	234億円	**宗吾車両基地の拡充、新型有料特急の導入　など**
合　計	**557億円**	

Copyright © Keisei Electric Railway Co.,Ltd.